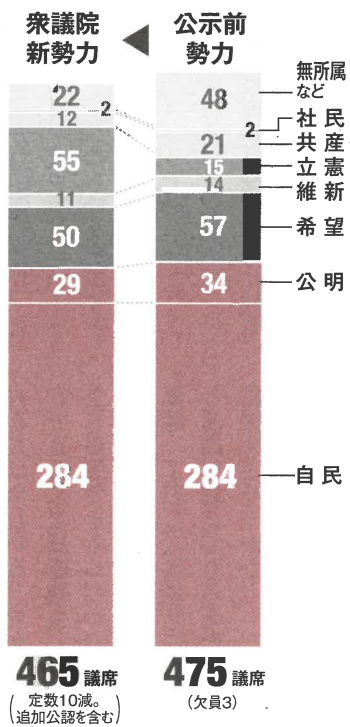


田中秀征・元新党さきがけ代表代行が、衆院選やリベラルの現状を分析

保守本流にももう一度

野党が分裂で自滅し、敵失で自民を利したとされる今回の衆院選。果たして本場の原因は？なゼリベラルは衰退したのか？ 政界再編を主導した経験を持つ元大物政治家が大胆に斬る。



総選挙の結果と今後の展開



与党

自公連立政権で長期安定政権を目指す

二大政党制への違和感

「政治家である以上、彼女は自分の思想と方向性を明示しなければならなかった。そして、信頼できる同志を持たなければならなかったのです。今後、起きる小池氏のような復活する

か是不明ですが……」

田中氏が違和感を抱いたのが、多種多様な創立メンバーの記者会見だった。「我々は三河以来の譜代、あなたたちは関ヶ原以降の外様」というように、加入時期で格差をつけた指導体制をつくる意思表示に見えた。そんな疑念が失望へと変わったのは、公認条件が示されたときだ。「政党である以上、選別は当然です。排除発言や本人の奢りというより、問題は、憲法観と安保法制という『踏み絵』の内容だったのです」

「集团的自衛権は憲法上認めない」という1972年の政府見解を翻して集团的自衛権を認め、解釈変更という禁じ手を使った安倍政権と、何ら変わらない。小池氏の動きは自民党内の刷新運動の域を出なかった。「それで、安倍政権の決定を許しがたい暴挙と考えていた人たちが一気に引いたということでしょう。有権者は鋭く本質を捉えているのだと思います」



元新党さきがけ代表代行 田中秀征さん(77) たなか・しゅうせい/自民に1983年の衆院選で93年に結党に初当選。93年に結党に初当選。93年に結党に初当選。93年に結党に初当選。

政治哲学や犠牲心がないと、めっちゃくちゃな事態になると民主党政権の失態でわかっている。彼は今後、そういうものとも闘っていくことになるでしょう」

編集部 熊澤志保

両端とは右側が、中山恭子参院議員(日本のこころ前代表)と、その夫で比例九州ブロックで当選した中山成彬元文部科学相(比例単独1位)だ。「小池氏の影響力が落ち、安全保障関連法の考え方も民進党と変わらないことが会合で確認された。居づらくなって、自ら抜けるのではないかな。会合でも発言することはなかった」(希望の党関係者)

左側は選挙戦中から小池氏を批判し、会合でも安保法を容認する政策協定書に異議を申し立てた民進出身の議員たちだ。「人数にすると3、4人だが、岡田克也元代表らが立ち上げた新党派『無所属の会』に合流する可能性もある」(同)

政治ジャーナリストの鈴木哲夫さんはこう指摘する。「安倍政権と対峙すると言いつつ、政策は是々非々。是がある以上、野党とは言えない。第三極の難しさはそこにある。みんなの党もなく、維新も今回の選挙で立ち位置がわかりづらく、議席を減らしている」

「排除」された側の立憲民主党が野党第一党になり、いまさら野党共闘の枠にも入れない。新体制の下、安倍政権に対峙する明確な政策を打ち出せなければ、有権者1千万票の大きな期待も失われる。 編集部 澤田晃宏

希望の党に行き場なし

いまだ共同代表も決まらない

「政権選択選挙になる」(小池氏)どころか、希望は235人の候補者を立てたが当選は50人とどどまり、うち38人が民進党の出身者だった。

希望の党は10月25日、結党後初めてとなる両院議員懇談会を開いた。希望の党関係者が多く、「当選したのは民進党からの合流組ばかり。その日、小池氏と初めて顔を合わせるという議員も

対決姿勢

えれば、極めて異質」。自ら手を挙げて、85年の綱領改正時にこれを削ろうとしたのが田中氏だった。

「保守本流は言論の自由を守り、経済の規模より暮らし向きに目を向けてきた。72年に政府見解を出した田中角栄の憲法観と歴史認識は、後藤田正晴氏や細川氏が強固に引き継いできた」

だが、2000年、小淵恵三元首相や竹下登元首相、二階堂進氏が相次いで亡くなった。加藤の乱が起り、06年に橋本龍太郎氏も死去するなどして、保守本流は急速に先細った。一方、伏流水化していた岸信介思想の自民党本流が、岸氏の孫である

多かった」

「私の言動で苦労をかけた」

「執行部人事については、パツジをつけられた皆様方でお決めたいただきたい」

「衆院選公示前にチャーターメンバー(結党メンバー)に、選挙後の人事は小池氏がすべて決